

## 高津区における地域の課題 提案

資料2-3

No.	課題名	課題の概要	課題に対する解決策
1	子育て環境の整備	<p>川崎市内の平成22年度の待機児童数は1076人と昨年度（713人）の約1.5倍に増加。全国で横浜に次いで2番目に待機児童の多い自治体です。高津区は多摩区（188人）、中原区（182人）に続き173人と、市内で3番目に多くなっています。</p> <p>川崎市ではここ数年、マンション開発に伴い就学前児童数が年間約1000人ずつ増加しているなど、子育て世代の流入が顕著です。しかし特に0～2歳児の待機児童は多く、0歳・1歳の待機児童が55%を占めている現状では、子どもを預けて働き続けることが難しい状況です。</p> <p>待機児童数増加の背景にあるものは、不況の影響で職場復帰を望む人が増えていることだけではなく、歩き始めた子どもを安心して遊ばせられる場、子どもに様々な体験をさせてやれる場、地域の人とつながれるような場が少ないために、子育て環境を保障してもらえよう場を求めて、保育園や幼稚園への入園を希望する人も増えているのです。</p> <p>孤立化する子育て世代の育児不安は、不適切な子育てや虐待につながることもあります。高津区こども・子育てネットワーク会議では、そんな母親の育児不安を解消するために、ホームページや冊子による情報提供に力を入れ、母親目線に立つての子育て情報を広く提供し、一定の成果を得てきました。しかし現在も区役所業務に対する要望において、「子ども・子育ての支援（44.9%）」は「街頭犯罪の防止（45.1%）」に次いで多く、施策として「幼稚園・保育園等の施設増設（61.1%）」や「子どもの遊び場の提供（42.4%）」が求められるなど、より子育てしやすい環境の整備が必要とされています。</p>	<p>「子育て支援」というと現状では「親支援」が主流ですが、今後は乳幼児期から思春期までの「子どもの育ち」を地域で支援していく必要があります。</p> <p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★乳幼児から小・中・高校生を含む子どもたちの過ごす場として公園を見直し、整備する</li> <li>★親だけでなく、地域の大人が子どもの育ちにかかわれる場をつくる</li> </ul> <p>など、子どもを地域で育てる環境を再構築することで、子どもの健全育成に寄与でき、子育て世代の親の目を地域に向けることもできます。地域の活動や仕事にかかわる親が増えれば、コミュニティの活性化にもつながるのではないのでしょうか。</p>
2	世代間交流から子育て環境づくり	<p>新しいマンションが増え、若い世代が増えています。地もとの方や地域の方との交流がある訳ではなく、逆に孤立している中で子育てをしている状況です。</p> <p>新しいマンションですと、マンション自体が町内会に加入しないといった現状もあり、どうしても地域とのつながりが取りにくい事も実際にあります。</p> <p>孤立しての子育て環境にプラスして、不況の影響から職場復帰を望む人が増えてきていますが、子どもを預ける保育園が無い現状。（待機児童の増加）</p> <p>地元の方たちは、逆に転入してきた方たちには町内会に加入してもらいたいという思いが強い。つながりを求めている。</p>	<p>子育て世代の若い方たちと、人生経験豊富な地元の方たちが、住んでいる地域（町内会・自治会）で交流が持てる工夫が必要。</p> <p>町内会や自治会が主体になって、子育て支援できる環境（場所・携わる人）づくりの工夫。</p> <p>子どもたちを町内会・自治会で育てる環境をつくることで、子どもは勿論その子どもたちの親が、町内会・自治会に関心を持つようになっていければと思います。</p>
3	地域コミュニティーマップ作り	<p>一口に高津区といっても自然条件も違えば、交通事情や人口増加地域とか、学校の状況など、それぞれです。</p> <p>第2期の課題の地域防災とコミュニティーの5つの提言、自助、共助、公助の流れの中で、共助がしっかりしないと、組織が機能しなくなってしまう。</p> <p>そこで高津区内のさまざまな地域コミュニティー作りを委員や区民で考えてみたい。</p>	<p>例1：小学生の登下校時の安全対策を学校、家庭、地域の連携でやる。</p> <p>例2：高津区の中学生や高津高校の生徒による災害時ボランティアや、地域ボランティア活動支援事業の創設</p> <p>例3：区の防災訓練も上記の事業と連携させ、子どもも関わる形にする。</p>
4	地域コミュニティと分野間のネットワーク作り	<p>日常生活や日頃の市民活動において、「縦割り社会」を感じる事が多くある。福祉・子育て・多文化・環境・地域・コミュニティ・文化…いろいろな分野で、それぞれの課題があり、それぞれの分野では、課題解決に向けて、プログラムやアイデアが提案されているのだと思うが、それらを個々の課題として捉えず、横の連携を持って「高津区の課題」としてつなげていくことによって、「新しい解決法」または「きっかけ」を見出せることもあるのではないだろうか。</p> <p>区民会議も第3期に入るので、課題の一つとして、「分野間のバリアフリー」と「分野間のバリアフリー」と「分野間のネットワーク作り（情報発信）」をテーマにしたいと思う。</p>	<p>区民、事業者、行政といった異なった立場の人たちが、世代や立場の枠（壁）を越えて、平場で話し合える「場づくり」の提供。</p> <p>例えば、「環境」という言葉をキーワードにしてフォーラムを開催し、あらゆる分野、あらゆる立場の方に参加してもらい、意見交換する「場」を提供する方法は、有効であると考えます。</p> <p>「意見交換」というと、固い、難しい、楽しくない会議を想像しがちだが、「必ずしもコンセンサスを得られなくても良い」くらいのゆったりとした考えのもと、まずは、意見を共有できる「場」ができれば、その先に解決策が見えてくると思う。</p> <p>まず、お互いに、お互いの課題を良く知り合う、ということが第一歩。</p> <p>そのために、区内で活動している市民団体の把握と交流、ネットワーク作りも必須であると思う。</p> <p>現在の「高津区市民活動見本市」「たかつまちなねっと」をさらに一歩進め、「高津区市民活動見本市」「たかつまちなねっと」、さらに「市民活動支援ルーム使用登録団体」等を相互把握し、連携しやすくなるようなシステムを作成することも重要と考える。</p>

No.	課題名	課題の概要	課題に対する解決策
5	コミュニティへの協力意識が低く、近隣の住民同士の関係が薄れている	町内会への加入率が低く、暮らしに必要な情報の共有や近隣のたすけあい意識が低いため、地域が見えない	●地域のコミュニティに退職世代が参加できるような呼び掛けを企画する。●地域の活動を知らせる情報掲示板を町会支援として行う。●地域の住民同士のつながりを深める事業を構想する。●区内で活動する市民活動団体を紹介し、町内会自治会との連携を図る。
6	地域コミュニティの広がりや深まりを求める	1. 区内周辺部においては、商店の休業・廃業により高齢者家庭では日常必需品の買い物に著しく不便をしている。医療についても同様である。 2. ひとり暮らし世帯で孤独死する例が発生し始めた。 民生委員の見守り活動が行われているが、近隣の声かけふれあい支援が急務である。 3. 町会への加入率が低く、地域コミュニティ拡充のために、未加入世帯を少なくすることが求められている。	1. 高齢者世帯の買い物行動について、アンケート調査を行い困難点の実状を解明する。 2. スーパーや商店に、あるいはボランティアによる「ご用聞き」や「商品宅配」を制度化することを検討する。 3. 高齢者の健康増進のために「公開体操」があり、毎月曜30名乃至40名集まり、推進が期待されている地域があるが、参加者の多くは女性で人数は固定化しており指導の工夫が求められる。 4. 防犯パトロールは安全のパトロールでもあり一層の推進が期待される。 5. 区民への広報活動の実態を調査して効果的な広報のあり方を求める。(ホームページ、市政だより、回覧板) 6. 社会福祉協議会事業と連携を図る。
7	コミュニティを生み出す「場所」「きっかけ」づくり	困っていること、解決したい問題は地域毎に異なり、おのずと解決策も異なる。地域のことをよく知る住民が率先して取り組んでいる地域では課題解決が進みやすい半面、実際に自ら動いて地域の課題解決に取り組む人が出てこない地域では、課題がなかなか解決しないようだ。 その背景に、地域で困ったことがあっても気軽に相談できるような「場所」や「きっかけ」が無い、という課題があると考えられる。そうした課題は都市部を中心に各地に共通する問題になっており、たとえば欧州などではすでに各地で都市再生政策の一環でコミュニティ、パートナーシップの再構築に取り組まれていて、地域が抱える様々な問題に対処されているという。 そこで、地域の課題に気づいて自ら解決に取り組みたい人がいる地域にて、そうした人を助け応援する「場所」や「きっかけ」をつくることで、ひいては地域の課題解決に欠かせないコミュニティを創出する。	困っていることや解決したい問題があり、担い手が一人でもいる(がコミュニティがない)地域にて、たとえば下記(一例)のような「場所」や「きっかけ」をつくる。  ●地域の人が自然に集まってくるような場所をつくる ●空いた場所(空き部屋、空き店舗など)を活用する ●長い坂道の途中にベンチを置いて休める場所をつくる ●物騒な場所には地域の人が集まれる場所をつくる ●買い物が不便な地域で野菜の即売などができる場所をつくる  人や団体がつながる「場所」や「きっかけ」をつくることで地域の課題発見・解決がしやすい雰囲気をつくり、コミュニティづくりのモデルをつくる。
8	地域防災とコミュニティ	1. 前期からの課題を継続して取り組む。 2. 5つの提言の具体化を進める	1. 区民を対象にして幅広い防災講座の開催 2. 避難場所運営会議、防災ネットワーク連絡会の充実、会議の恒常化 3. 備蓄倉庫の配置のバランス化を図り、内容の充実、把握と共有化
9	地域防災活動と環境負荷削減活動を通じたまちづくり	1. 地域防災活動の推進を通じた地域コミュニティの推進 2. 環境負荷削減活動を通じた地域コミュニティづくり推進	1. について・・・第2期に引き続いてその継続・発展を図る。 ①自主防災組織・避難所運営会議の活性化を推進する。②独居老人世帯・災害時用援助者、子育て世帯への支援づくりや地域防災施設の見学会、避難訓練の推進について検討しその舞台化の施策を検討する。③町会に加入世帯や若年者を対象にした地域防災訓練の機会・イベントを町会・自治会と連携して検討しその具体化を図る。④局部的は自然災害(集中豪雨・地盤崩壊など)の調査研究と対策を関係諸機関と協働して検討し、その具体化を図る。 2. について・・・第1・第2期に引き続きその継続発展を図る。 ①「廃棄物削減」「廃棄物資源化」「省エネ活動」の推進を関係機関(環境事業所・NPO・市民団体)と協働して、町会・自治会、学校など教育機関(小・中・高、保育・幼稚園など)、行政機関、民間事業所の参加を得たイベントを企画し、その啓発と実践を推進する。②「エコたかつ」の象徴としての区役所の施設(緑のカーテン、太陽光発電)・取り組み(廃油回収・省エネ・省資源など)の見学会を町会・自治会、境域機関と連携して見学会・学習会などのイベントを企画し、啓発と普及活動を推進する。③雨水利用、地下水の活用、打ち水運動を地域のヒートアイランド防止や地域緑化活動を連携して推進する。
10	地域防災	第2期での「5つの提言」を実践に移すための道筋を第3期では考えたい。	特に(提言4)の防災ネットワーク連絡会議・避難所運営会議を区内の全てで、早急に立ち上げ、それぞれの会議での問題点および課題をピックアップさせる。問題点および課題は多岐にわたるであろうから、行政サイド(区役所、消防署、警察署)もその体制を整える。区民会議がどの時点まで携わるかは検討課題である。
11	防災倉庫	防災倉庫をできるだけ早く整理をした方が良くはないかと思えます。災害が起きてからでは遅いのではないのでしょうか？ 区民会議の議題は多方面に亘り範囲が広すぎるとおもいます。 多くの意見が出るのは結構ですが、結局何も決まらずに議論だけで終わるケースが多いのではないのでしょうか。	



No.	課題名	課題の概要	課題に対する解決策
12	防災	災害用備蓄倉庫の高津方式の確立 防災ネットワークの活性化 避難所運営会議の活性化	
13	環境問題、リサイクルへの関心が薄い	ごみ出しのルールが守られないうえ、資源循環のためにどのような市民の協力が求められているか分かりにくい。身近にできるエコ活動として、リサイクルへの協力を意識できるような情報を知らせる必要がある。	●ごみ出しの広報に工夫が必要。●資源循環のための活動を支援する。●地球温暖化ストップは地域からを合言葉に、身近なエコ活動を推進する。●「使用済みてんぷら油の回収」を町内会自治会でも協力する。
14	多摩川バーベキュー問題	住民意見の反映、検討内容の周知	検討経過を地域住民、関係団体に知らせる。回覧等の活用
15	二子新地、高津を良くしよう！	1. 二子新地駅前松栄会通りから大山街道との交差点に名前をつける。  2. 多摩川、二子新地付近における土日のバーベキュートラブル問題 3. 高津駅近辺にも駐輪場を設置	1. 関係団体との打合せの上、名前をつける 2. 曜日、時間帯によって二子新地駅前松栄会通りを一方通行にしてみてもは。 3. 歩道駐輪場により、歩行者の歩行が難しいため、府中街道沿いにも駐輪場を設置
16	たかつアマチュア音楽祭	たかつアマチュア音楽祭の開催	
17	溝の口駅南口の駅前広場の整備が不十分である	溝の口南口駅前再開発が進んでいない。バスロータリーが狭いうえ、バス停が分かりにくく、案内掲示板もない。区役所をはじめ近くの公共施設などへの方向表示もない。	●駅前美化活動の支援。●駅前案内掲示板の設置。●駅前整備に関するワークショップを開催し、計画に多くの地域住民が参加できるようにする。●緑地景観を生かした駅前広場の設計コンペを企画する。●溝の口駅南口利用者へのアンケート調査や、近くの住民および地権者へのヒアリングを実施する。
18	安全・安心で賑わう人と環境にやさしい中心市街地へ	高津区を中心市街地でもある溝の口駅前には商店街が形成され、かつては川崎市第二の商業地であった。今でも一見すると街は賑わっているように見えるが、一方でスーパーや商業ビルの跡地が青空駐車場になるなど、衰退傾向が見られる。 「放置自転車」はよく問題視されるが、買物客用の短時間駐輪場が無いためにあちこちに自転車が置かれ、そこに長時間駐輪が加わることで收拾がつかなくなっている。加えて、最近ではむしろ違法駐車（四輪）が目立ってきており、そもそも歩行者・自転車利用者が大変多い土地柄にもかかわらず、中心市街地へクルマが侵入し、大変な危険を感じる。 さらにこの10年ほどで、駅前再開発や空き地に駐車場が造られるなどしてクルマ社会化が促進されており、これは「エコシティ」の取り組みにも逆行する上、最近では夜の商店街を暴走するクルマもあり、歩くだけで危険を感じるようになった。 今後は超高齢化社会になると言われるが、高津区内でも歩行補助具を使った高齢者の姿を見かけるようになっており、しかし商店街の中には来街者がゆっくり休めるベンチや中央広場が無い。まずは中心市街地から、まち全体を人と環境にやさしい構造に変えてゆく必要に迫られている。	●「あんしん歩行エリア」に指定されH17年度より整備されていると言うが、むしろますます安心して歩けない状況になっている。元々クルマがほとんど走らない街路であるから、「歩車分離」の方針は改め、全域に歩行者優先の標示（欧州のゾーン20のようなもの）を出すとともに、商店街を日中自動車通行止め（緊急車両・貨物車・タクシーを除く）にする。 ●近隣商店にクルマでの来店誘導を自粛するよう協力を求める。 ●駐輪問題は緩和されつつあるものの依然としてあり、これには短時間駐輪場の不足がある。マルエツ、長崎屋（ドンキホーテ）周辺の現在歩道や路側帯になっている所に短時間駐輪機を設置することで長時間駐輪を排除する。（すでに丸井1階の短時間駐輪場が効果を発揮しているが、これは通勤通学など長時間の自転車駐輪は少し離れた駐輪場でも利用するが、短時間無料駐輪場は店の近くに確保する必要があることから。） ●旧平瀬川上（長崎屋裏）の遊休地化している道路を広場に用途変更し、ベンチや短時間駐輪機などを置くとともに、休日は登録制での移動販売の出店や音楽演奏などを試行する。
19	地域の文化遺産、特に二ヶ領用水、円筒分水への関心を高めたい	二ヶ領用水400年、円筒分水70年を来年むかえるにあたって、地域文化遺産としての認知度は低く、溝の口駅前の円形のモニュメントも知られていないし、知らせる努力も足りない。総じて、区内の文化活動への支援が足りない。	●区のイメージアップにつながり、地域に愛着を持つ事業として「全国円筒分水サミット」の推進をはじめ関連事業を区民会議としても支援する。●水と緑の高津区ガイドを作成し、広報する。●区民と行政が共同でまちづくりを進める事業として、現在高津区まちづくり協議会で行っている、地元を知り、楽しむための「高津学」をともに推進する。

No.	課題名	課題の概要	課題に対する解決策
20	たちばな農のあるまちづくり事業の推進	08年から始まった食と農を通じた市民交流から、次代の地域ブランドの創出を目指す「たちばな農のあるまちづくり事業」を区内全域での事業展開とし、より推進する。	今ある高津の農・自然、併せて歴史、文化を守る。 区民に周知・広報を進めることで、興味・関心のある理解者を増やし、地産地消、たちばなブランドの創出アイデアなど地域資源を活用する。 次世代を担うこどもたちの地域学習の場の提供。 これらを、交流事業を開催することで、多様な市民、活動団体との連携をはじめとした広義の協働を推進する。
21	プラザ橋を利用する	橋第三では地域の70歳以上の一人暮らしの老人を対象に会食会を開催しています。その際、調理実習や大会議室を使用したいのですが、思うように部屋を取ることができません。 なるべく、地域の方々へのこうしたイベントには優先していただきたいのですが…。	
22	地域のノラ猫不妊・去勢手術の確立	高津区内の公園や空き地で野良猫のフン尿・子猫が生まれている、等の苦情が多く寄せられています。動物愛護の観点からも飼い主のいない不幸な猫をこれ以上増やさないために、町内の野良猫全頭に不妊・去勢手術を施して一代限りの野良猫としてこれ以上野良猫を殖やさないよう地域で取り組まなければならないと思います。	兵庫県芦屋市に本部がある(横浜市に支部があります)【(財)どうぶつ基金】という動物愛護団体が平成20年には1,000匹分の無料不妊手術チケット券(一匹の手術料は¥6,000)を出していました。現在は助成金制度に変わって一町会・団体で一度の申し込みにつき計10匹までで、オス一匹¥3,000メス一匹¥5,000の助成金に変わり手続きや審査が厳しくなっています。 川崎市では町会・自治会・団体への助成金制度がなく、個人の申し込みにつき一匹¥2,000と聞いていますが、この制度を変えて助成金の増額と助成枠の拡大を希望します。
23	自らの住んでいる土地についての理解が不足している	地域理解のための施策を展開する必要がある。	①高津地区 ②橋地区 ③①②合同での講座の開設等 現在高津区文化協会の「探訪講座」を拡大した市民講座としたい。

一般区民からの提案

No.	課題名	課題の概要	課題に対する解決策
1	防災コミュニティの確立 大震災時の中学生ボランティアの活用	<p>阪神淡路大震災のような事が昼間発生したときを想定して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で生活している人達で生活弱者(高齢者、病人、身体障害者etc.)といわれる方々が昼間阪神淡路大震災のようなことが発生したら緊急避難がどこまでできるか。</li> </ul> <p>次のようなことが想定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や病人、身体障害者などが屋内に取り残されていないか</li> <li>・建造物の損壊で避難脱出できない人がいないか</li> <li>・その他</li> </ul> <p>本来救出を期待できる次の方々は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区内の成人男性、女性は大半が区外、市外に勤務していると想定される。</li> <li>・主婦も多くはパートなどに働きに出掛けている。</li> </ul> <p>* コミュニティがない地域 * 町会などに無関心で隣近所付き合いもしていない。</p>	<p>震災時に中学生に声掛け運動に参加してもらう</p> <p>震災時に中学生が自分の住まいの周辺(町会等)の生活弱者の家庭に行き大丈夫ですかと声掛けをしてもらう。(この振り分けも難しいが可能である。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生になると腕力も大人並みになる。緊急救出も期待できる。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. そのために社会福祉協議会(町会)などと協議して事前に町会単位に生活弱者の名簿を作成しておく。(プライバシーの関係で町会などの組織を嫌う人が多い。)</li> <li>2. 区と中学校区に地域教育会議があるので震災時中学生ボランティアの組織作りをしてもらうように呼びかける。</li> <li>3. 各地域教育会議は各中学校の生徒会と話し合い趣旨を説明して震災時ボランティア等を組織してもらう。また住まいの生活弱者といわれる方々も震災時中学生が助けに来てくれると言うと名簿作成に協力的になる。[名簿作成もアイデアが必要]</li> </ol> <p>* 上記以外の他の方法でもよい中学生ボランティアを生かす方法を検討して欲しい。 (注) 中学校全体が取り組むことは難しいと思う。学年別1、2、3年別々でもよい。</p> <p>※中学生ボランティア組織が出来たら将来は小中学校等の避難場所への誘導も考える。</p>

